



営農NEWS



ダイズ病害虫の防除を徹底しましょう

ダイズの生育中には、種々の病害虫が発生します。特に、莢や子実被害を生じる病害虫の発生は、ダイズの収量や品質の低下を招いて大きな減収となります。

主な英害虫としてダイズサヤマバエ、マメシンクイガ、シロイチモジマダラメイガ、ヒメサヤムシ類などがおり、さらに子実を吸汁加害するカメムシ類がいます。また、茎葉害虫としては、生育初～中期に若葉を食害するヒメサヤムシ類、中～後期に多発生すると葉を暴食するハスモンヨトウ、オオタバコガ、マメハンミョウなどがいます。

病害虫発生予報8月号（県病害虫防除所）によると、8月におけるオオタバコガの発生は平年並～やや多い、ハスモンヨトウは平年並～やや少ないと予想していますので被害発生に十分な注意が必要です。

子実被害としては紫斑病があり、開花期以降に連続した降雨があると多発生しますので、その場合は防除が必要です。

これらの病害虫は、主にダイズの開花期から子実肥大期にかけて被害が伸展しますので、この期間における防除の徹底が特に重要となります。8～9月にかけてダイズ圃場の病害虫をよく観察し、適期、適切な防除に努めてください。

＜防除のポイント＞

- 1 ダイズの開花は、播種時期や品種によって異なります。6月下旬の播種では、平年、タチナガハやハタユタカで8月上旬頃に、納豆小粒で8月中旬頃に開花します。防除時期の簡易な目安にするのは、開花してからの経過日数ですので、圃場のダイズをよく観察し、基準となる開花した日を記録して防除時期の参考とします。
- 2 ダイズ害虫は種類が多く、加害時期や防除適期が複雑で微妙に異なります。そこで薬剤防除時期の目安として、開花後10～15日頃より約10日～2週間間隔で3～4回行う必要があります。前半はサヤマバエや莢内子実を食害するシロイチモジマダラメイガ等が中心で、中～後半はカメムシ類や食葉性のハスモンヨトウ、オオタバコガが中心となります。なお、カメムシ類やハスモンヨトウ等が多発生した場合は、適宜、追加防除が必要になります。
- 3 紫斑病は、開花後15～40日間に1～2回の薬剤散布を行い、その後も降雨が続く場合には追加防除を実施します。
- 4 ハスモンヨトウやオオタバコガ幼虫は老齢になると薬剤の防除効果が低下するため、圃場をよく観察し、若齢期のうちに防除を行ってください。なお、その際は葉裏や株元にも十分薬液がかかるように散布してください。
- 5 薬剤防除の際は、薬剤の収穫前日数に十分注意し、また、同一分類（コード）剤の連続散布は避けてください。

第1表 ダイズ主要害虫の主な防除薬剤

（令和3年8月5日現在）

薬剤名	希釈倍率または使用量	収穫前日数／使用回数	対象害虫					分類
			ハスモンヨトウ	シロイチモジマダラメイガ	マメシンクイガ	ダイズサヤマバエ	カメムシ類	
スミチオン乳剤	1,000倍 1,000～1,500倍	収穫21日前まで／4回以内		○		○	○	1B
トレボン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで／2回以内	○	○	○	○	○	3A
トレボン粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで／2回以内	○	○	○	○	○	4A
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで／2回以内				○	○	4A
プレオフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで／2回以内	○		○			un
プレバソフロアブル5	4,000倍	収穫7日前まで／2回以内	○		○			28
アニキ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで／3回以内	○					6
アタブロン乳剤	2,000～4,000倍	収穫14日前まで／2回以内	○					15
キラップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで／2回以内					○	2B
MR.ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで／2回以内					○	3A

注1) 無人航空機または少量散布専用ノズルを装着した乗用型散布機を用いる場合は、それぞれの農薬使用基準を遵守して使用してください。

注2) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

第2表 ダイズ紫斑病の主な防除薬剤

（令和3年8月5日現在）

薬剤名	希釈倍率又は使用量	使用時期／使用回数	分類
ゲッター水和剤	1,000倍	収穫14日前まで／3回以内	1と10
ベルコート水和剤	1,000倍	収穫7日前まで／4回以内	M7
Zボルドー	500倍	—／—	M1
アミスター20フロアブル ※	2,000～3,000倍	収穫7日前まで／2回以内	11
ファンタジスタ顆粒水和剤 ※	2,000～4,000倍	収穫7日前まで／3回以内	11

注1) ※印の薬剤系統には、ダイズ紫斑病において薬剤感受性の低下傾向が確認されていますので、連年の使用は避けてください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040